

春嶽の旅日記

「東海紀行」でたどる参勤交代



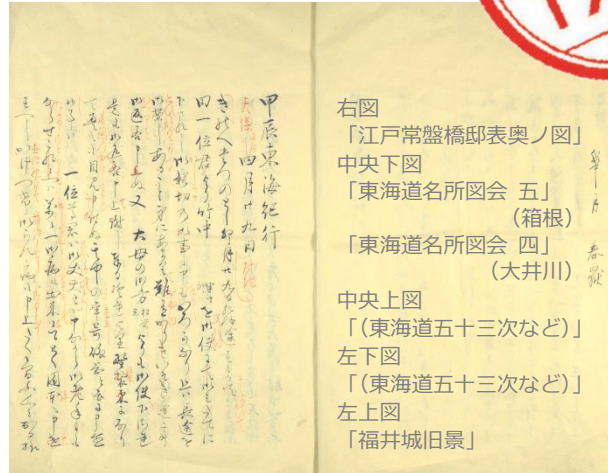
天保 15 年 (1844)、若き福井藩主 松平春嶽 (慶永、当時 17 歳) は、参勤交代で福井へ向かうために江戸を発ちました。東海道経由で、約 2 週間の旅の始まりです。

春嶽は、この旅で見たこと、聞いたこと、感じたことを紀行文にまとめています。

展示では、その紀行文「東海紀行」をもとに、道中のようすやできごと、しきたりなどを紹介しています。



福井
(福井城本丸御殿)



右図
「江戸常盤橋邸表奥ノ図」
中央下図
「東海道名所図会 五」
(箱根)
「東海道名所図会 四」
(大井川)
中央上図
「(東海道五十三次など)」
左下図
「(東海道五十三次など)」
左上図
「福井城旧景」



5月11日(最終日)
府中
やあ廉之丞
(エピソード 10)

5月8日(10日目)
墨俣・大垣間の佐渡川
ふな〜♪うた〜♪
(エピソード 8)



岡崎
(矢矧橋)

5月3日(5日目)
鞠子・岡部間の宇津の谷坂
十回子
(名物その 2)

5月2日(4日目)
吉原・蒲原間の岩淵村
くりのこもち
(名物その 1)

5月5日(7日目)
袋井・見付間
不覚っ!!
(エピソード 7)

浅水
水落
鯖江
府中
今宿
脇本
鯖波
湯尾
今庄
板取
柳ヶ瀬
木之本
小谷
春照
藤川
玉
関ヶ原
垂井
大垣
墨俣
起
萩原
稲葉
清須
名古屋
宮
鳴海
池鯉鮒
岡崎
藤川
赤坂
御油
吉田
二川
白須賀
新居
舞坂

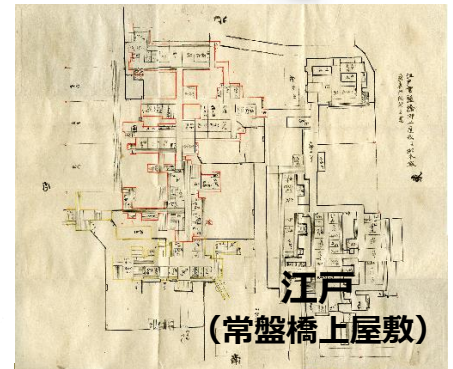
5月11日(最終日)
湯尾
峠ライトアップ
(エピソード 9)



富士山

5月3日(5日目)
興津・江尻間の清見寺
田中…あの田中!?
(エピソード 6)

5月1日(3日目)
箱根の東福寺
拓本を GET!
(エピソード 5)

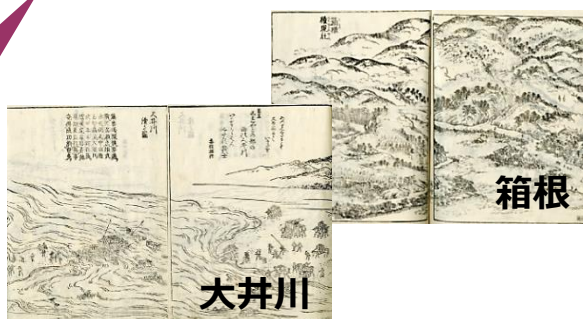


スタート

4月29日(1日目)
品川・川崎間の磐井神社
大名と犬と猫
(エピソード 2)

4月30日(2日目)
藤沢・平塚間
予は駕籠を降りるのだ
(エピソード 3)

4月30日(2日目)
大磯・小田原間の梅沢村
か…かかか…雷!
(エピソード 4)



大井川

展示資料 （「資料名」資料群名）	年月日	資料群番号-資料番号 （複製本番号）
東海紀行 17歳の青年藩主、松平春嶽による参勤交代の旅の記録です。旅をしたのは、天保15年（1844）4月29日から5月11日までの13日間、江戸発・福井着の「交代」でした。この「東海紀行」、実は江戸で教えを受けていた「筑山先生」（儒者の成島筑山）からの宿題でした。 （「東海紀行」松平文庫 福井県立図書館保管）	天保15年 （1844） ～弘化2年 （1845）	A0143-20273 （複製本なし）
江戸のわが家 福井藩の江戸上屋敷の絵図です。屋敷には上・中・下の3種類があり、藩主が居住していたのは、この上屋敷です。 常盤橋邸は、吉邦が拝領して以降、茂昭まで、10代にわたる福井藩の上屋敷でした。常盤橋までは、麴町、竜ノ口、浜町という変遷をたどっています。 （「江戸常盤橋邸表奥ノ図」松平文庫 福井県立図書館保管）	（年未詳）	A0143-21410 （複製本なし）
武家名鑑「武鑑」 大名や役付きの幕臣らの基本情報をまとめた資料集です。藩や幕府ではなく、須原屋や出雲寺といった商人が編集・出版していたため、誤記も含まれていたようですが、改訂を繰り返して役替えや屋敷替え、代替わりなどを反映し、最新の情報を提供していました。 武鑑は、武士だけでなく、町人や百姓にも重宝され、政務に、取引に、お土産に、とさまざまな場面で活躍していました。武鑑を片手に大名行列を見物、というのも楽しみのひとつだったようです。 （須原屋茂兵衛版「（天保武鑑）」吉川充雄家文書 当館蔵）	天保期 （1833 ～1844）	C0037-00604 （C2279）
東海道名所図会（箱根、清見寺、大井川） 東海道のガイドブックです。宿駅だけでなく、街道上の各地を細かくとりあげ、観光地はもちろん、地理や歴史、民俗、さらには産業まで、さまざまな情報を交えながら紹介しています。 また、挿絵も豊富で、中には数ページにわたる大作もあります。 （秋里籬島（著）「東海道名所図会」吉川充雄家文書 当館蔵）	寛政9年 （1797）	C0037-00551 ～00556 （C2240～2245）
東海道五十三次（富士山、矢矧橋） 東海道の53の宿駅を題材にした版画です。葛飾北斎、歌川豊広、国貞、広重、国芳など、多くの絵師が「五十三次」を題材にした作品を制作しています。 中でも、広重は38種類もの作品を残しています。これは近代以降の印刷物ですが、原画は、その広重です。 （日本木版発行「（東海道五十三次など）」勝見宗左衛門家文書 当館蔵）	近代	B0037-00661 （B0338）
お迎えの準備は！・・・万端？ 藩主の帰国にあたり、城下の「馳走」（おもてなし）を果たすために奔走した町人たちの記録です（当時の藩主は治好）。 ここでの馳走は「掃除」ですが、単なる掃除ではありません。まず与力、そして奉行と、二重の見分（チェック）を控えた厳重な「掃除」でした。 （「（治好参勤着城前道筋、3日与力中掃除見分二付達）」ほか 浅田益作収集文書 当館寄託）	年未詳 （治好代）	C0121-01521, 01523～25 （C2755）
福井のわが家 幕末の福井城下を描いた画帖です（全25場面）。原本は越葵文庫「福井城郭各御門其他見取絵」（福井市立郷土歴史博物館蔵）で、これはその写本にあたります。 城下の各所がクローズアップされており、当時の城下の細かなようすを知ることができます。 （山下与平（写）「福井城旧景」福井県立図書館貴重資料 福井県立図書館蔵）	昭和2年 （1927）	T0001-00004 （複製本なし）
福井藩の年中行事「馬威し」（複製） 新年1月、左義長の関連行事です。「下威し」の後、小正月、14日に本番の「本威し」がありました。 「本威し」では、まず、乗馬した武士が、福井城の南西、桜門から城外に登場します（現在の「片町入口」交差点付近）。そして、本町を直進し（中央大通り）、京町で左折（「九十九橋北」交差点付近）、九十九橋の北口まで駆け抜けていきます。 しかし、その馬の前には、町人・百姓が立ちはだかりました。この日ばかりは無礼講、武士が乗る「馬」を「威し」て進路を妨害するのです。 武士は、培った馬術を駆使して完走を目指し、町人・百姓は、それを食い止めようと体を張ります。こうして、両者は激しい攻防を繰り返ひろげ、正月の城下を大いに賑わせました。 天保15年（1844）の参勤交代は、帰国の途のため、この「馬威し」とは逆方向になりますが、九十九橋を渡って本町をとおり、桜門から城内に入っています。この時の春嶽もまた、「馬威し」に負けず劣らず、城下を賑わせたことでしょう。 （「紙本馬威図六曲屏風」福井県立博物館蔵）	（年未詳）	（なし）